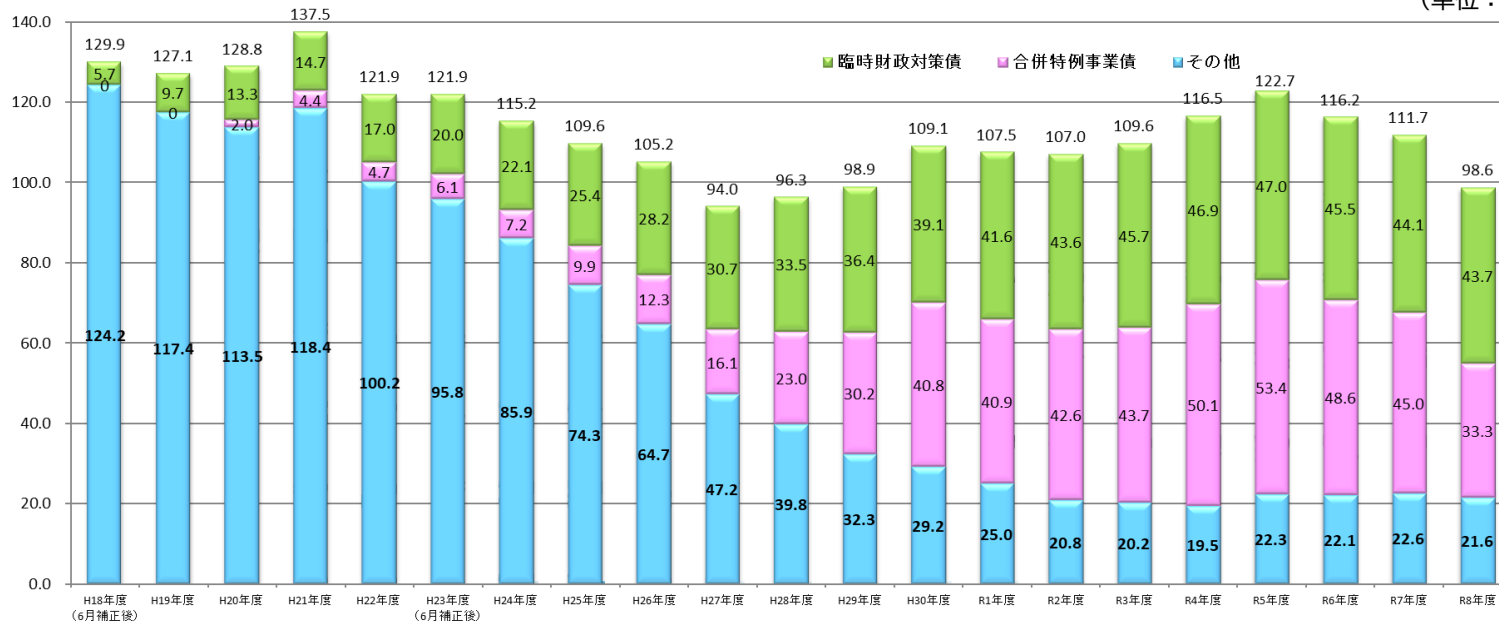




18.財政運営 18-(1)-① 市債・基金の状況（予算ベース）①

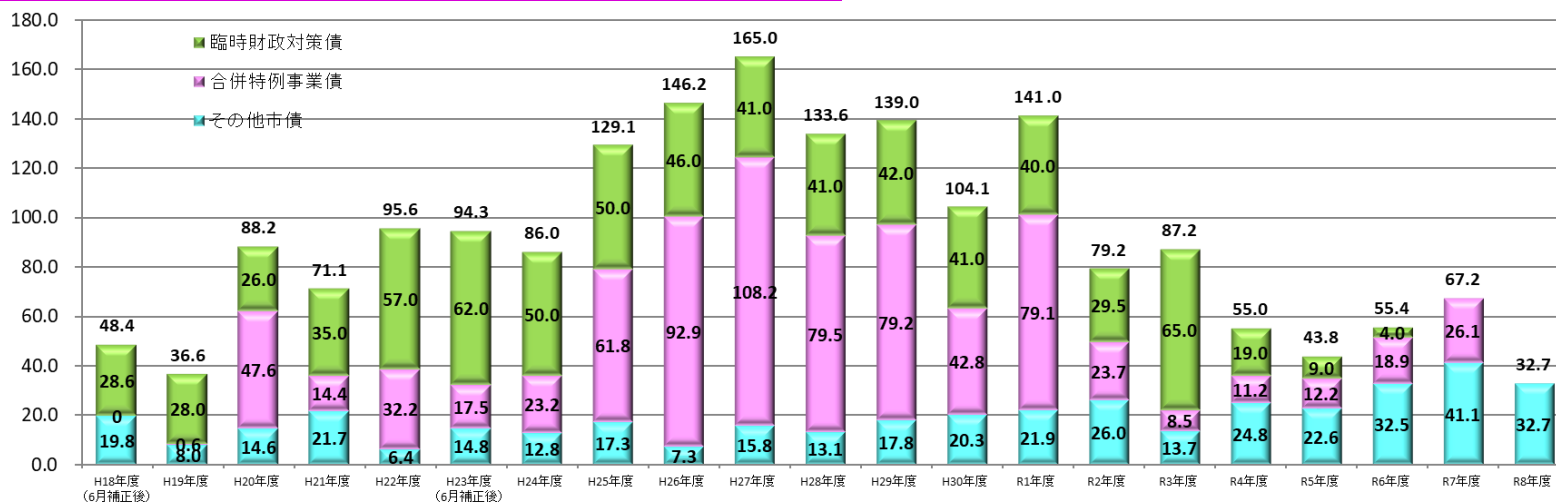
■公債費の推移（一般会計当初予算額）

（単位：億円）



■市債発行額の推移（一般会計当初予算額）

（単位：億円）



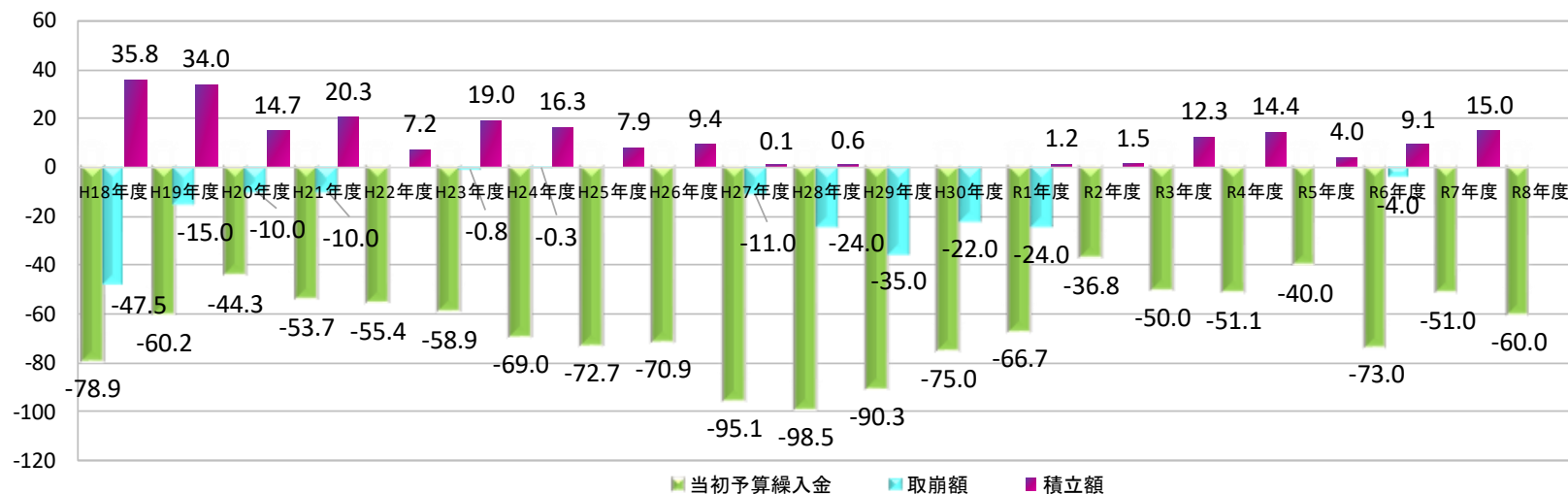
※臨時財政対策債：元利償還金の全額が地方交付税に算入される市債。実質的な地方交付税

※合併特例事業債：元利償還金の7割が後年度の地方交付税に算入される市債

18.財政運営 18-(1)-② 市債・基金の状況（予算ベース）②

■財政調整基金から一般会計への繰入金

（単位：億円）

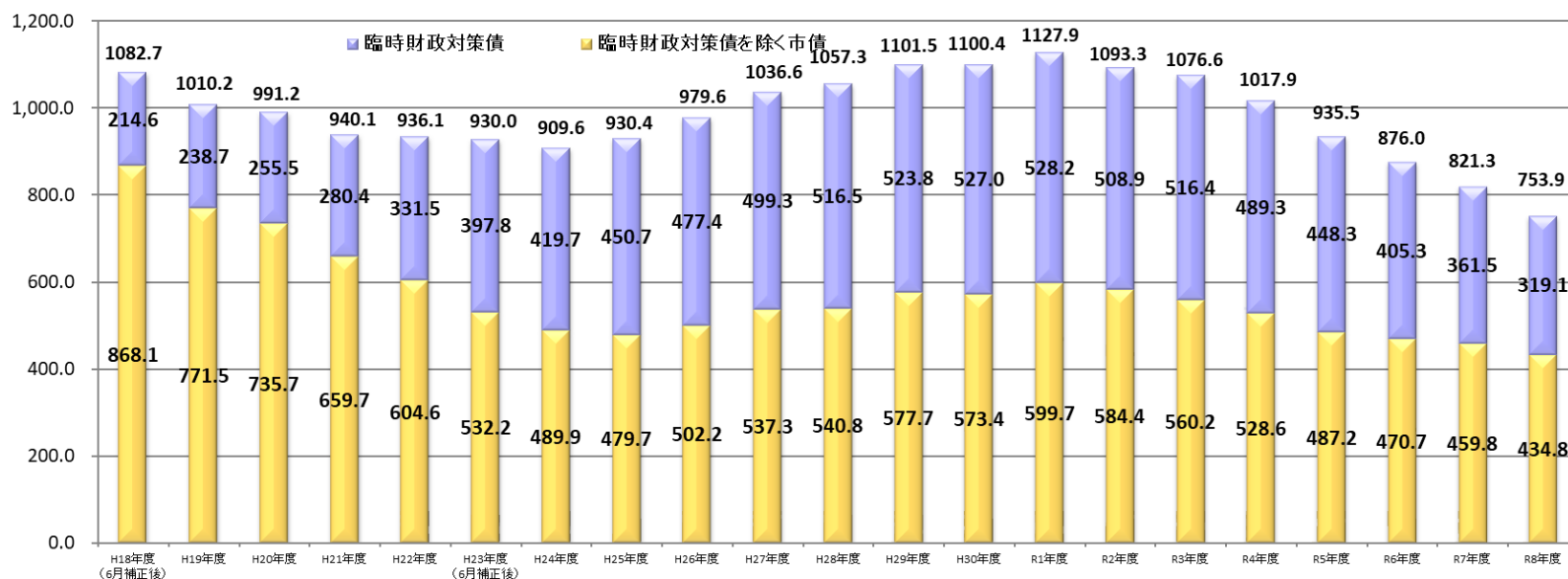


※当初予算繰入金は、基金残高に対してマイナス要素であるため、グラフ作成上、マイナス表記としたもの。

※平成18年度繰入金、23年度繰入金については、6月補正後予算額。

■市債残高の年度末見込額（一般会計）

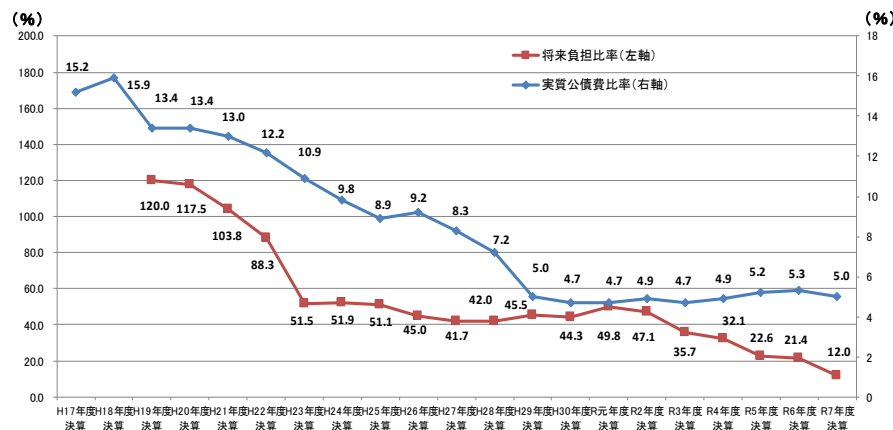
（単位：億円）



18.財政運営

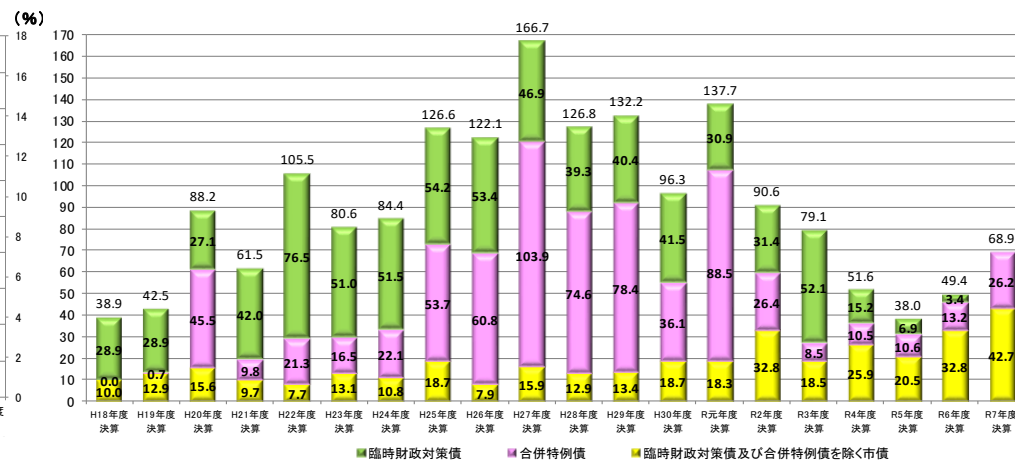
18-(2) 市債・基金の状況（決算ベース）

実質公債費比率と将来負担比率の推移



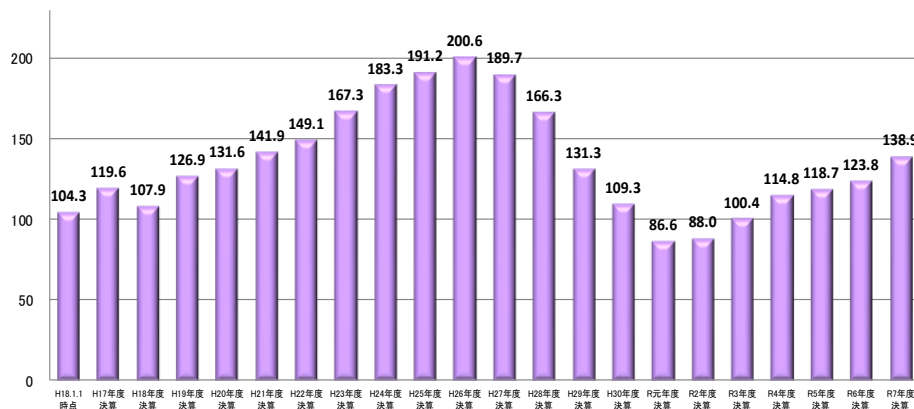
歳入における新規の市債発行額（普通会計ベース）

(単位：億円)



財政調整基金年度末残高の推移

(単位：億円)

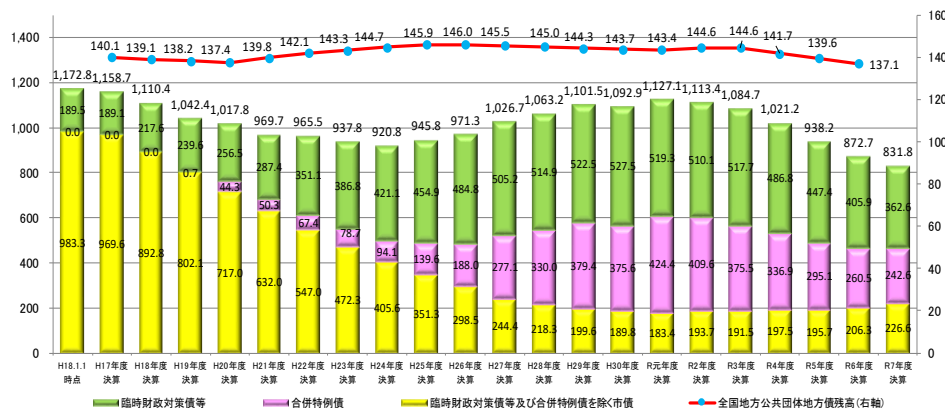


市債借入年度末残高と全国地方公共団体地方債残高の推移（普通会計ベース）

(単位：億円)

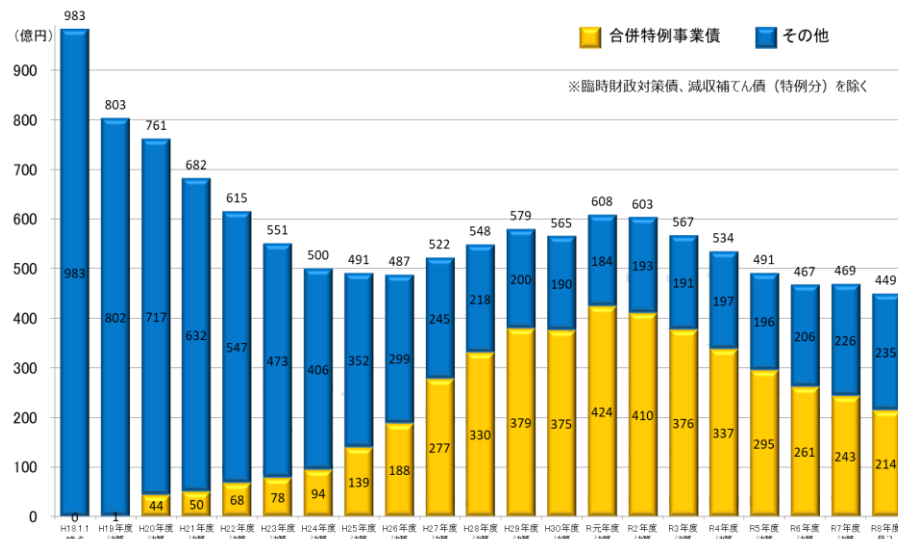
(単位：兆円)

※見込には繰越事業含む

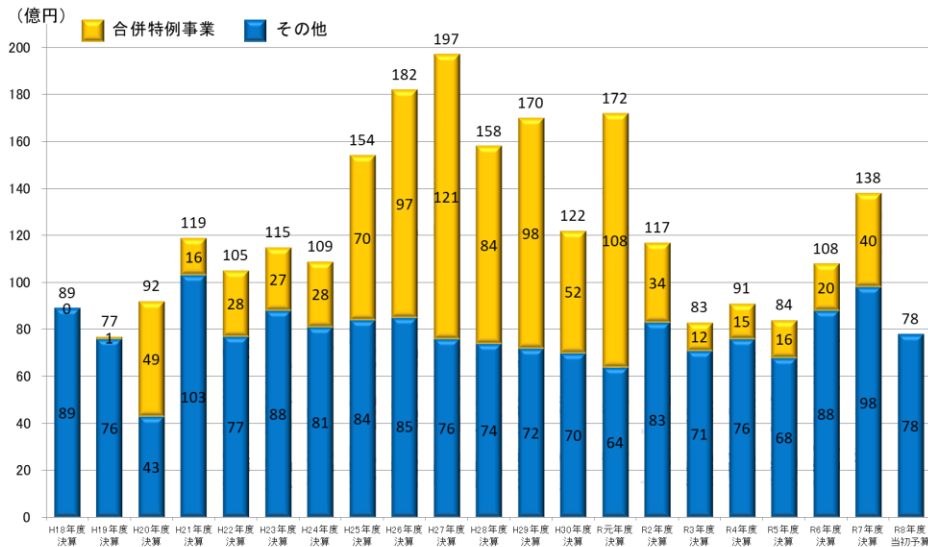


18.財政運営 18-(3)-① 市債・普通建設事業費・減債基金の推移

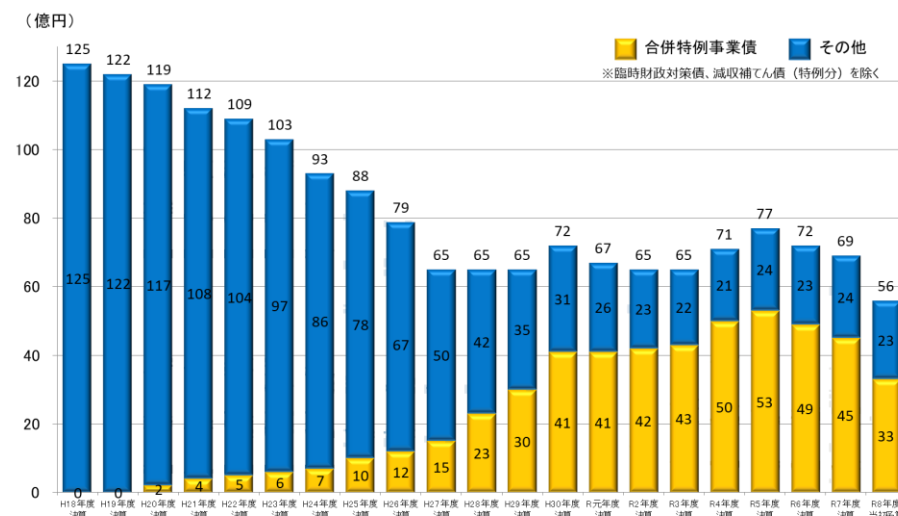
市債借入残高（借りているお金）の推移



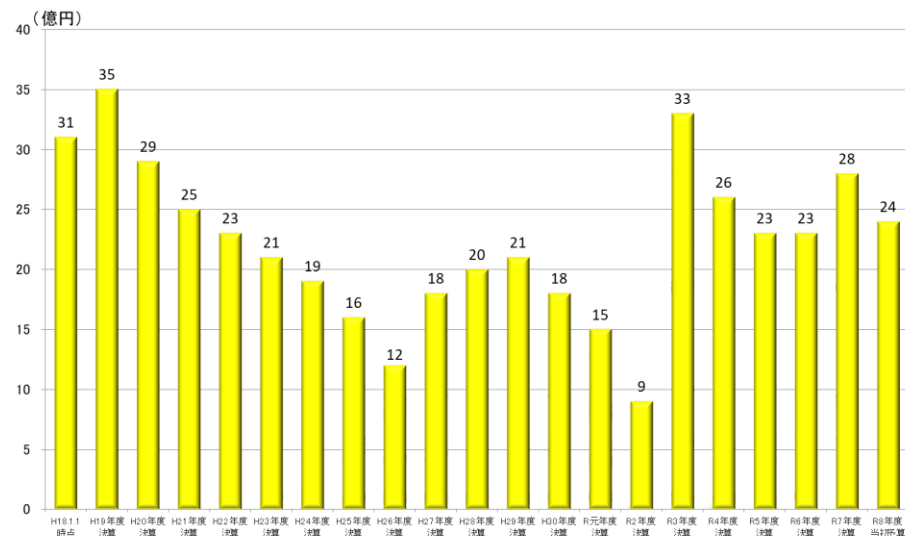
普通建設事業費（インフラ・公共施設の整備に使うお金）の推移



市債償還額（その年に返したお金）の推移



減債基金年度末残高の推移



18.財政運営 18-(3)-②【市長コラム】新たな局面を迎えた津市財政

令和4年4月1日号 広報津より

Vol. 119(2022.4.1)
市長
コラム
Mayor's Column

新たな局面を迎えた津市財政
～合併優遇措置終了後の公共投資～

津市長 前葉 泰幸



道路、橋梁、学校など、インフラ・公共施設の建設は、市税などの一般財源や国の補助金とともに、市債を主な財源とするのが一般的です。

自治体が借入金で公共事業を行うことには理由があります。多くの住民が長期に渡って使用する社会資本の整備を、現在のみならず将来の世代までが公平に負担するとともに、巨額の建設費用を長期分割で返済することで、毎年度の財政支出を軽減することができるからです。

■1,000億円の返済から始まった新・津市財政

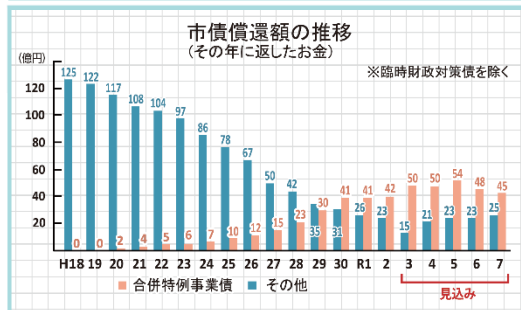
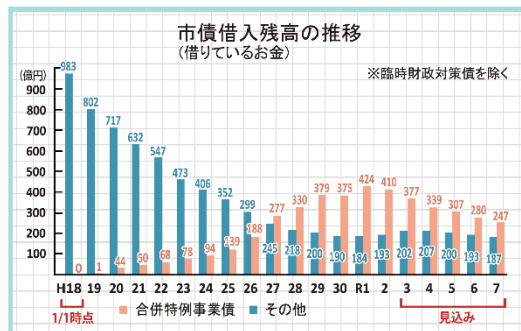
平成18年にスタートした新・津市は、旧市町村のころから手掛けていた安濃・河芸の都市公園事業や津駅前北部の区画整理などと並行して、合併時の取り決めにより10市町村から託された新規の大型事業に着手することが求められました。

ところが、合併直後の津市財政は厳しい状況に陥っていました。旧市町村から巨額の負債を引き継いだからです。その額、実に983億円。新市の年間予算額を上回る規模の借入金を返済するために、合併初年度から125億円もの公債費を捻出する必要に迫られました。

それでも、最優先課題であった地域防災情報通信システムの構築と、中央学校給食センターの建設に取り組むことができたのは、合併特例事業債を発行し、有利な借入れを行ったからです。

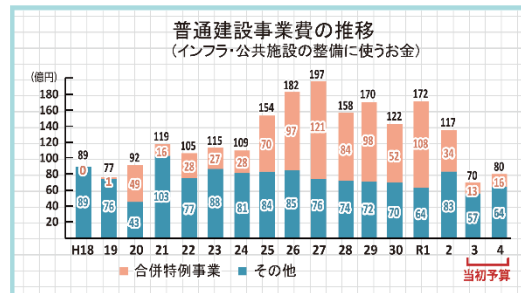
しかし、目の前の借金返済に迫られていた当時の津市には、それ以上の新たな投資を始めるゆとりはほとんどありませんでした。

そこで、市職員数の2割削減の達成を当初予定の10年から8年に前倒しするなど、行財政改革による経費削減に努めた結果、合併時の負債は、平成26年度末時点で3分の1以下の299億円、年間償還額は2分の1の67億円まで減少しました。



■合併時に取り決めた新市建設計画を実現

財政の健全化により体力を蓄えた津市は、大型のプロジェクトを次々と本格化させました。一般廃棄物最終処分場、産業・スポーツセンターといった大規模施設の建設も軌道に乗り、合併当初89億円だった普通建設事業費は、平成27年度には197億円に倍増しました。



■合併大型プロジェクトの返済計画

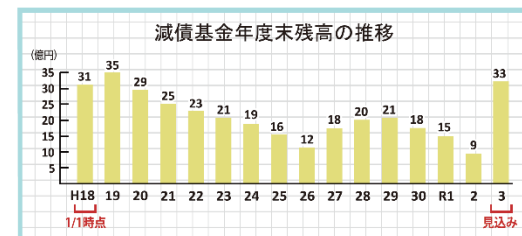
次なる課題は合併特例事業債の返済資金の確保です。合併前からの借入金残高の減少と入れ替わるように増

え始めた合併特例事業債の毎年の償還額は、平成30年度に40億円を超え、令和5年度には54億円に達することが見込まれます。このピークを乗り切るため、令和3年度末の3月補正予算で新たな対策を講じました。

コロナ禍の下、令和3年度は市財政の悪化が懸念されていましたが、ワクチン接種や子育て世帯への10万円給付などには全額国費が交付され、水道基本料金の4カ月分無料化など津市独自の施策にも国の交付金を活用したことで、影響は最小限にとどまりました。

入札差金などにより残った財源は35億円。例年であれば、次年度以降の支出に備え財政調整基金に積み戻すなどの措置を講じるところですが、今回は、減債基金に積み立てることにしました。

減債基金とは、将来の市債の返済に備え計画的に貯金しておくものです。この残高を33億円まで増やし、令和5年度にピークを迎える合併特例事業債の償還に充てることで、財政の安定化を図ったのです。



■公共投資の新たな展開

借金返済の第2波を乗り切る見通しがつき、再び積極予算の編成が可能となった津市は、令和4年度、前年度比15%増、80億円の普通建設事業費を計上しました。橿原温泉湯の瀬は8月オープンを目指して建設を進め、北消防署の新築にも取り掛かります。香良洲高台防災公園には、避難場所となる管理棟と備蓄倉庫を整備します。

■手腕が問われる独り立ち後の財源調達

同時に、令和7年度の合併特例事業債の発行期限を見据え、他の財源を確保して事業を展開する方策も講じています。津興橋、大谷踏切、半田・藤方の雨水幹線、この3つの大型事業は、新設された補助金の獲得に動いたことが功を奏し、早期完成の目途がつきました。

これからも、市民生活の利便性の向上と経済発展の基盤となる公共投資を安定的に続けるために、あらゆる知見を活用して財源確保に努め、バランスのとれた財政運営を行ってまいります。

18.財政運営

18－(4)－① 合併特例事業債の活用①

合併特例事業債 ～平成19年度から令和7年度までの起債借入額～

令和8年5月31日更新

【単位：百万円】

分野	事業内容	起債借入額	
		H19～R6年度	令和7年度(見込)
学 校	中央学校給食センター建設	1,351.7	-
	給食受入搬出施設改修(橋北中ほか13校)	210.7	-
	給食施設等改修(立成小)	145.7	-
	小中学校の大規模改修(9校)、長寿命化等の改修(18校)、増築(7校)	8,622.5	807.9
	学校施設等耐震整備	798.2	-
	学校施設トイレ改修	852.9	-
	学校施設エアコン整備(1134教室)	2,789.4	-
	みさとの丘学園整備(通学路含む)	750.8	-
	三重短期大学改修(エレベーター増設、渡り廊下耐震化補強等)	84.8	-
こども	北口保育園園舎改築	339.4	-
	雲出保育園園舎移転	164.0	-
	たるみ児童福祉会館増築	23.4	-
	放課後児童クラブ整備(18施設)	287.2	90.2
	市立認定こども園整備(道路整備含む)(4園)	1,676.9	-
防 災 ・ 消 防	地域防災情報通信システム(同報系)整備	1,558.9	-
	地域防災情報通信システム(移動系)整備	625.0	-
	防災物流施設整備	389.2	-
	消防救急デジタル無線・高機能消防指令センター整備	1,030.0	-
	消防施設整備(中署、北署、美里柳原分署、一志分署、南分署、西分署等)	1,729.6	676.1
	消防車両購入(救急車・資機材購入・消防車含む)	809.6	91.1
	消防団詰所・車庫改築・車両購入	359.1	2.2
コ ミ ュ ニ テ ィ	耐震性防火水槽整備	378.4	-
	既存ホール整備(リージョン・白山)	449.0	-
	創造ホール整備(安濃)	192.2	-
	豊が丘会館別館新築	151.3	-
	津南防災コミュニティセンター整備	205.6	-
	新町会館整備	294.9	-
	津西会館別館整備	201.2	-
	安東コミュニティセンター整備	157.0	-
	高茶屋市民センター改修	63.6	-
	北口文化会館耐震補強	7.6	-
	中央公民館・社会福祉センター移転改修	611.2	-
	公民館改修(高宮、河芸)	45.3	-
	公民館耐震補強等(倭、元取)	126.0	-
	公民館施設整備(一身田、橋南)	303.0	-
	教育集会所耐震補備(長野教育集会所)	2.8	-

分野	事業内容	起債借入額	
		H19～R6年度	令和7年度(見込)
ス ポー ツ ・ 文 化	産業・スポーツセンター施設・進入路整備	13,968.6	-
	芸濃武道場の耐震補強	2.6	-
	市民テニスコート整備	1,148.5	-
	久居アルスプラザ整備	4,482.5	-
	文化財施設(旧明村役場庁舎等)整備	100.3	-
	埋蔵文化財センター多気北畠氏遺跡調査分室耐震補強	0.5	-
環 境 ・ 畜 場	新最終処分場建設(リサイクルセンター含む)	7,561.3	-
	旧白銀環境センター跡地等整備	27.3	-
	新畜場整備	2,164.6	-
ま ち づ くり ・ イ ン フ ラ	まちづくり振興基金の設置	3,800.0	-
	久居駅周辺地区都市再生整備 (東口駐輪場・耐震性貯水槽・防災備蓄倉庫整備)	151.2	-
	上之段・河原新田作業所の耐震補強	0.6	-
	広域農道整備事業負担金	120.4	-
	道の駅津かわげ整備	212.1	-
	榎原自然の森温泉保養館再整備	762.9	-
	津駅前線の整備(道路の維持)	18.1	57.4
	上浜元町線の整備(道路の新設・改良)	1,173.1	-
	広明町河辺町線の整備(道路の新設・改良)	11.3	49.0
	内多清水ヶ丘線の整備(道路の新設・改良)	56.0	92.9
	半田久居線・雲出野田線の整備(道路の新設・改良)	773.2	942.2
	県道一志美杉線道路事業負担金(矢頭トンネル)	738.3	-
	相川小戸木橋線街路事業負担金	62.8	-
	河芸町島崎町線道路改良事業負担金	144.8	53.2
庁 舎 等	本庁舎大規模改修	234.0	-
	本庁舎周辺整備(応急診療所及び教育委員会庁舎整備分)	606.5	-
	本庁舎周辺整備(北工事事務所整備分)	286.7	-
	久居庁舎整備	759.2	-
	香良洲庁舎耐震補強等改修	59.1	-
	一志庁舎改築等	181.3	-
	美杉総合文化センター整備(庁舎耐震分)	212.3	-
	千里ヶ丘出張所・公民館、倭出張所の耐震補強	2.1	-
	倭出張所新築移転	48.8	-
	久居ふるさと文学館改修	86.4	-
	公共施設等(津市体育館等)の除却	340.4	98.6
合 計		68,085.9	2,960.8

※R8への繰越含む

合併特例債を有効活用しています!

合併特例債は、こんな事業に活用できます

1 一体性を確立するための事業



3 公共施設を統合整備するための事業



2 均衡ある発展のための事業



() は合併特例債充当額

財政的に有利な借金です

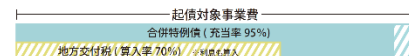
POINT 1

事業費の95%に充当できて、国が返済の70%を負担します。

つまり

=

事業費の約3分の2が戻ってきます!



POINT 2

合併した市町村数が多く、人口が増えた市町村ほどたくさん発行できます!

津市のケースを発行可能額の計算式に当てはめてみると...

建設事業分(一体性・均衡・統合を図るために施設などの整備に使うお金)

$$\text{基本額} \times \left(\frac{\text{増加人口}}{\text{10,000人}} \times 0.042 + 1.667 \right) \times \left(2 - \frac{2}{10} \right) \times 95\% = 672.467 \text{ 億円}$$

基金造成分(まちづくりの振興に使うために積み立てることが可能なお金)

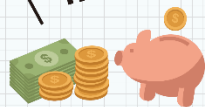
$$\text{上乗額} \times 95\% = 38 \text{ 億円}$$

津市の合併特例債
発行可能額
710.467 億円

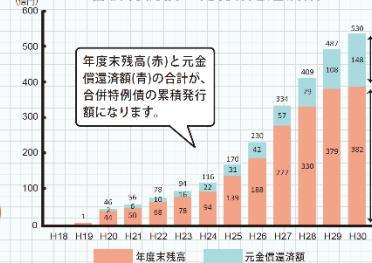
発行期間が15年から20年に再延長されました



グラフで見る
津市の
借金



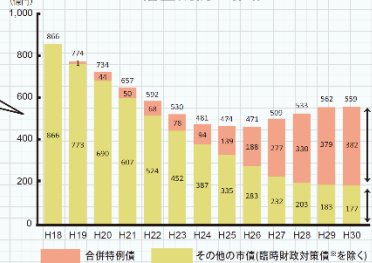
合併特例債の発行額と返済額



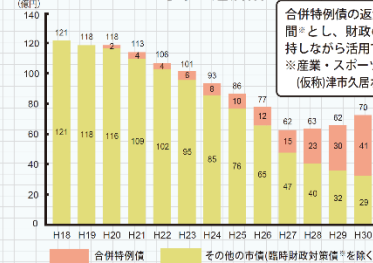
平成26年度までは段階的に減少してきましたが、平成27年度以降は増加しています。しかし、その借入内容は交付税措置の大きい合併特例債であることから、これまでの市債よりも良い性質の借入となっています。

※臨時財政対策債とは...
地方の一般財源の不足に対処するため、特例的に認められている地方債で、その元利償還金については後年度において全額が交付税として交付されます。

借金残高の推移



毎年の返済額



合併特例債の返済期間は10年間とし、財政の健全化を維持しながら活用できます。
※産業・スポーツセンターと(仮称)津市久居ホールは20年間

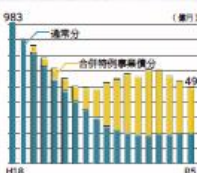
合併後の津市の財政と事業展開

平成18年1月1日の市町村合併から20年。津市は財政の健全化を図りながら、合併特例事業債(元利償還金の7割を国が負担する借金)などの有利な財源を活用し、多くの事業を展開してきました。

健全財政を堅持

1 市債借入残高(借金)

市町村合併時に983億円あった市債の残高が、令和5年度末には491億円まで減少。財政上有利な合併特例事業債の割合が増加



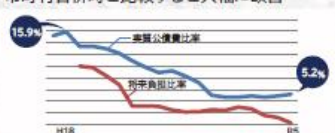
2 財政調整基金残高(貯金)

行財政改革による経費削減に努め、平成26年度末には200億円まで増加。その後、大型事業の財源に活用し86億円まで減少、令和5年度末には118億円まで回復



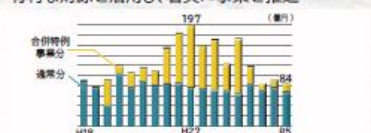
3 実質公債費比率^{※1}と将来負担比率^{※2}

市町村合併時と比較すると大幅に改善



4 普通建設事業費(施設整備費等)

有利な財源を活用し、着実に事業を推進



※1 標準財政規模(市税や普通交付税など通常収入されると見込まれる財源)に対する元利償還金(借入金の返済額)の割合。数字が小さいほど財政負担が少ない。
※2 標準財政規模に対する負債総額(借入金の残高)の割合。数字が小さいほど将来の財政負担が少ない。

国庫補助・交付金事業に採択された大規模事業

1 大谷踏切



踏切道改良計画事業
事業費34.4億円(うち国費17.3億円)
(H27~R6)

2 半田川田・藤方第二排水区



県内初の大規模雨水処理施設整備事業
事業費53.4億円(うち国費24.5億円)
(R3~R6)

3 津興橋



大規模修繕・更新事業
事業費46.6億円(うち国費23.1億円)
(H27~R6)

4 海浜公園内陸上競技場



デジタル田園都市国家構想交付金事業
(地方創生拠点整備タイプ)
全体計画事業費24.7億円(うち国費9.5億円)

合併特例事業債を活用して多くの事業を展開

合併特例事業債は、構成市町村数や人口増加の割合に応じて発行可能額が大きくなるため、10市町村が合併した津市の発行限度額は全国有数規模の約710億円となりました。そのうち約668億円を、令和5年度末までに有効活用しています。これまでに実施した主な事業をご紹介します。()は合併特例事業債の活用額

学校

小中学校の大規模改修(9校)、長寿命化改修(7校)、増築(7校)

79.6億円

エアコン整備(1,134教室)

27.9億円



こども

認定こども園(4園) 16.7億円

放課後児童クラブ(14施設) 2.4億円



防災・消防

消防署(2署)・分署(4分署)等

16億円

防災物流施設
(雲出伊倉津町)

3.9億円



コミュニティ

合併特例事業債
発行限度額
約710億円

津南防災コミュニティセンター

2.1億円



新町会館

2.8億円

スポーツ・文化

津市産業・スポーツセンター

139.7億円

久居アルスプラザ

44.8億円



環境・斎場

新最終処分場およびリサイクルセンター

75.6億円

いつくしみの社

21.6億円



ボートレースの収益金も、事業展開に役立っています!

ボートレース競走事業会計から一般会計への繰出額

年度	金額(億円)
H16~27	0
H28~R1	4
R2	33
R5	43

津市の財政に寄与し、市民生活に貢献しています。

新型コロナウイルス対策 10億円

こども基金 10億円

こどもの医療費助成のほか、国の支援が届かず、かつ子育てに関わる世帯が直接その恩恵を受けられる事業に活用

学校施設整備基金 3億円

雨漏り対策の防水改修や屋内運動場の床改修など、国の補助金等の活用が困難な市単独事業に活用



平成30年7月1日号 広報津より

市長コラム Mayor's Column

法改正を求めて 奔走した市長たち

津市長 前葉 泰幸



合併した自治体は、旧市町村の境界を超えて広域的な視点に立ったまちづくりを開始します。その財源確保に合併特例債という有利な借金をすることを認め、国は平成の大合併を積極的に推進しました。

■津市の合併特例債発行可能額は全国有数

合併後10年間は事業費の約3分の2が国から戻ってくる優遇措置です。借入総額は合併する市町村の数や人口が増える割合が多いほど大きくなることから、10の市町村が一緒になった津市の場合、限度額は710億円と全国でも有数の規模になりました。

■10年で使い切るのは命取り

ただし、その3分の1は、自力返済分です。津市は財政の健全性を保つために、平成20年に策定した総合計画において10年間で500億円、上限の7割程度に発行額を抑えることにしました。これまで、斎場いつくしみの杜や中央学校給食センターなどの新設、上浜元町線、一志美杉線といった旧市町村をつなぐ道路整備などに活用しています。

■東日本大震災で期間延長

平成23年3月、東日本大震災が起こると事情が一変しました。災害復興や防災対策を優先し、合併特例事業は後回しにせざるを得ない自治体が全国で続出したことから、平成23年から24年にかけて法律が改正され、10年間でとされていた期限が被災地では20年間に、非被災地では15年間にそれぞれ延長されたのです。

■チャンスを生かす

津市の場合、平成27年度で終了するはずだった実施期間が平成32(2020)年度まで延長されることになり、人札不調で遅れが生じていたサオリーナと場所の選定に時間を要した久居の文化ホール事

業が時間切れとなるリスクが解消されました。これが一番の安心材料となって、このまたとない機会に市民のくらし充実のための事業を上乗せできないかと考えました。

■低金利時代のメリットを生かした資金調達

財政的には、借入期間を10年に設定していたことで、早い時期に借りた分の返済が完了する時期を迎えていました。新規の借入額が過大にならないよう十分な注意を払えば、将来にわたって健全財政を維持することができると結論づけ、サオリーナと久居の文化ホールに要する資金を期間20年の固定金利で調達することを決断しました。低金利のメリットを生かして返済額の平準化を図り、万全を期して新たな事業のための借入枠を捻出したのです。その結果、小中学校普通教室へのエアコン設置に23億円を投じることにしたほか、豊が丘おおぞら会館と倭出張所の新築、一身田公民館、(仮称)津南防災コミュニティセンター、新町会館の整備にも取り掛かるなど、追加事業を順調に展開することができています。平成32(2020)年度までの合併特例債発行累計額見込みは595億円。5年の期間延長が幸いし、合併当初に想定した額より約100億円多く市民のくらしに役立つ事業を盛り込むことができました。

■他市の窮状

話はここで終わりにはなりません。昨年6月の全国市長会議の後、細江茂光・岐阜市長(当時)、竹上真人・松阪市長、横山忠始・香川県三豊市長(故人)と私の4名が集まり、合併特例債のさらなる期間延長を求める運動を開始することを合意したのです。7つの町が集まり香川県第3の都市となった三豊市は、旧町間の合意形成に手間取り、約450億ある発行枠の3分の1しか使っておらず、計画中の施設整備事業を数多く残したまま時間切れとなりそうでした。危機感に突き動かされた横山氏ができる限りのことはやってみようとする全国市長会議の席で見知った市長に声を掛け、それに即応したのがこの4名です。折しも、東京五

輪開催準備に伴う建設需要の増大で多くの自治体が事業進捗の遅れを懸念している状況でした。集まった4市も、まだ起債枠を残しており、期限が延びればその有効活用を図ることができるという見解で一致しました。

■再延長を求めて活動開始

初期に合併した自治体の中には平成30年度末で期限を迎えるところが出てきます。岐阜市が取りまとめ役となってすぐさま全国の市長に呼び掛け、8月には11人の発起人が名を連ねる「合併特例債の再延長を求める首長会」が発足し、要望活動を始めました。全国の市長に送付して実施したアンケート結果を携え総務省や国会議員に働きかけたことで、合併後の自治体の実情や地方創生にかけける160市町村長の思いへの理解が得られ、11月、川崎二郎・衆議院議員を代表発起人とする「合併特例債の再延長を求める国会議員の会」が設立されます。5年間の再延長を盛り込んだ改正案は議員立法として準備されることになり、本年4月18日、全会一致で可決されました。市長同士のネットワークによる入念な意思疎通と迅速かつ積極的な行動がついに実を結んだのです。

■厳格な財政管理のもと20年かけて使い切る

津市では、平成37(2025)年度まで115億円残す合併特例債を財源とした事業を展開することが可能となります。1度目の延長の時と同様、将来の財政負担が制御可能な水準にあることを確認した上で厳選した事業に充ててまいります。正式な決定は「新市まちづくり計画」の改訂を市議会に諮り、議決を経てからになります。

■さらなるくらしの充実のために

市民の皆さまに「合併してよかった」と感じていただけるよう、くらしの充実のためのさらなる事業展開を図ってまいります。

令和2年1月1日号 広報津より



またとないチャンスを生かききる

津市長 前葉 泰幸

平成18年の合併にあたり「新まちづくり計画」が示した将来の津市の姿は、本年6月オープン予定の久居アルスプラザという最後の大型事業の完成をもって結実します。

■合併による一時的な経費増大を国が支援

10市町村が期待を込めて新市に託した数々の事業を進めながらも津市が健全財政を維持できたのは、行政の効率化でコストを削減するとともに、国の財政支援策を最大限に活用してきたからです。

■財政の優遇措置は15年

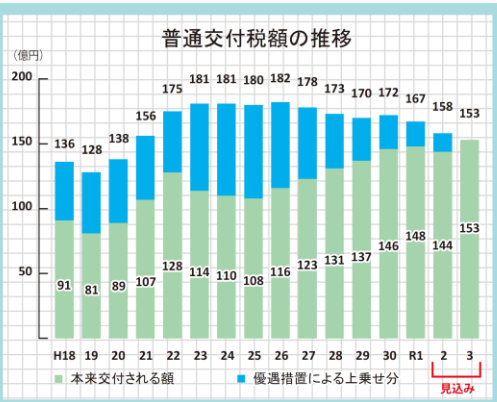
自治体が自主的に使い道を決められる地方交付税は、旧市町村がそれぞれ交付されていた額の合計より合併して一つになったときの方が少なく算定されます。その緩和策として、合併後10年間は旧市町村が存続したものとみなして合計額を交付し、その後5年かけて徐々に減額される特例措置がとられてきました。その期間が令和2年度をもって終了します。

また、自治体が事業のため独自に資金調達をする手段としての地方債の中で、合併に伴い必要とされる事業に限って適用が認められる合併特例事業債を発行する期間も、本来であれば令和2年度で終了するはずでした。

■全国有数の特例債発行可能額を制御する

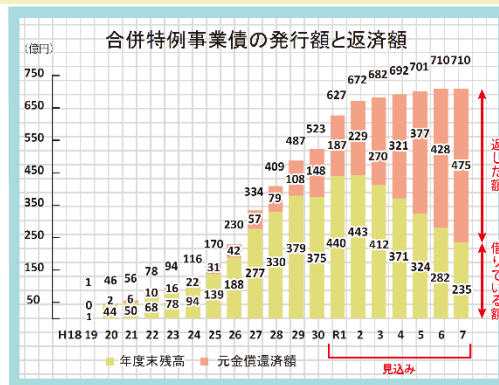
ところが、法改正により合併特例事業債の発行期間が令和7年度まで延長されたことで事情は一変しました。津市にはまだ発行枠が残っていたからです。有利な条件で資金が調達できるとはいえ、期間内に710億円という津市の限度額いっぱいまで借金を抱えてしまうことは、後に市の財政

が制御不能になる恐れをはらんでいました。期間終了も間近となったとき、同様の悩みを持つ合併市町村からの要望を受け、国が5年の期間延長を決定。残存活用チャンスのチャンスが生まれたのです。こ



のまたとない機会に市民の暮らしのさらなる充実を目指して事業を前に進めようと決断し、急ぎ、新たな条件の下での今後の財政の見通しについて検討を開始しました。

まず、ピーク時で180億円まで増えた普通交付税額は150億円程度まで減少していくことが見込まれます。一方で、地方債の残高は、合併前の借金を着実に償還しつつ新規地方債の発行額をコントロールしてきた結果、令和2年度末をピークに減少に転じる見込みです。地方交付税という自主財源が減ってきて借金残高が順調に減っていくことから、厳格な財政管理を行えば合併特例事業債の延長期間である令和3年度からの5年間、健全財政を維持しつつ残りの発行枠を最後まで使い切って新たな事業を追加することが可能であると結論に達しました。



■市民のためにもっとできることを厳選

とはいえ、合併特例事業債の残枠は83億円と限りがあり、これまでのようにさまざまな分野に幅広く充てていくために十分な額ではありません。そのため、津市の未来を見据え対象事業を絞り込むことにしました。

最優先するのは、次の世代を育む事業です。保育定数確保のためのこども園の増設、小中学校校舎の長寿命化、放課後児童クラブの拡充など、子育てや教育分野への投資を続けました。また、消防署の整備や消防車両の更新により防災力を強化します。

次に、現在の市民のニーズに応える事業にも充当します。生活道路の整備や、コミュニティ施設の増築、地域文化ホール改修、日帰り温泉観光施設の建て替えなど、地域住民から大きな期待を寄せられている事業を着実に形にしていきます。

■優遇措置終了後の津市財政の行方

そのうえで合併特例事業債の発行が終わる令和8年度以降も津市の健全財政を維持するためにはさらなる慎重な運営が必要です。人口減少社会において税収の伸びは期待できません。個々の事業の進め方を工夫し新しい財源を獲得するなど、細部への目配りと小さな努力の積み重ねで市民の皆さまにご信頼いただける持続可能な財政の構築に取り組んでまいります。

18.財政運営 18-(4)-⑥【市長コラム】健全財政の下で進める大型事業

令和7年2月1日号 広報津より

Vol.151(2025.2.1)
Mayor's Column
市長
コラム

健全財政の下で 進める大型事業

津市長 前葉 泰幸



■まちを一つにする大事業は特別な地方債で

平成の大合併により誕生した新・津市の合併構成市町村数は10と、全国で6番目の多さです。

財政力に差のある旧市町村の一体性を高め、均衡ある発展を遂げるために、新たなまちづくりの財源として借入れが認められた地方債が合併特例事業債です。構成市町村数や人口増加の割合に応じて発行可能額が大きくなることから、津市の限度額は710億円と全国有数の規模となりました。

津市産業・スポーツセンター、久居アルスプラザや一般廃棄物最終処分場の建設、23の小中学校校舎の増築や大改修など、合併時に取り決めた大規模事業全てを完成させるには巨額の投資が必要でしたが、合併特例事業債という元利償還金の7割を国が負担する有利な借金を最大限に活用して津市の自己負担割合を低く抑え、計画的な償還を実行することにより健全財政を保っています。

実際、津市の実質公債費比率(借入金の返済額の大きさを財政規模に対する割合で表したものは、令和5年度時点で5.2%と、合併直後の平成18年度15.9%から大幅に改善され、全国の県庁所在46都市中11位となっています。

実質公債費比率
(令和5年度)

1位	大津市	-0.4%
2位	大阪市	0.9%
3位	佐賀市	2.4%
4位	岐阜市	2.5%
5位	札幌市	2.9%
...		
11位	津市	5.2%
...		
42位	千葉市	10.7%
43位	青森市	11.3%
44位	京都市	11.8%
45位	新潟市	12.1%
46位	高知市	12.9%

■大型事業の推進に欠かせない国の補助金

同時に、市民生活の向上と地域経済への効果が大きいインフラ整備の事業化に向けた補助金の確保にも努めてきました。

大谷踏切の拡幅(34億円)、津興橋の架け替え(49億円)、半田川田(48億円)と藤方第二(57億円)の雨水管整備などは、津市のような財政規模の都市が自ら実施するには財源の確保に大きな困難を伴う大事業です。

どの事業にも公平に薄く広く充当される交付金では津市への配分総額に限りがあり、他に抱える事業の予算を削らざるを得ない場合もあることから、国に対し、このような複数年にわたって多額の費用がかかる大事業には、交付金に代わる補助金の仕組みを創設し、別枠で予算を配分するよう、粘り強く要望を重ねました。その結果、国が制度の見直しを図ったタイミングで、津市はいち早く事業採択を受け、安定的な財源が保証されることとなりました。

平成元年に供用を開始した海浜公園内陸上競技場のリニューアル事業(25億円)は、該当する国の補助メニューがなく、財源の獲得に苦心していました。

令和5年1月、ポストコロナの新しい社会に向けたデジタル改革の機運の高まりの下、内閣府がデジタル田園都市国家構想交付金事業に「地方創生拠点整備タイプ」というカテゴリーを創設したことを受け、中心市街地に近接する既存の競技場がまちに活力を生み出す屋外スポーツの拠点となるべく、遠隔指導、試合分析、ライブ配信が可能なAIカメラを整備し、電子写真判定棟を新設した大規模大会や記録会が開催可能な第3種公認陸上

競技場として再構築した計画を策定し提出したところ、地方創生に資する取り組みとして認められました。今年度から始まった交付金の総額は約10億円を見込み、令和10年度の供用開始を目指して実施設計に着手したところです。



■合併特例事業債終了後の財源確保

令和7年度に合併特例事業債の発行期限を迎えるにあたって、今後の貴重な財源として期待できるのはボートレースの収益金ですが、さらなる事業展開のためには、補助金・交付金や有利な地方債の積極的な活用により財源を安定的に確保することが求められます。

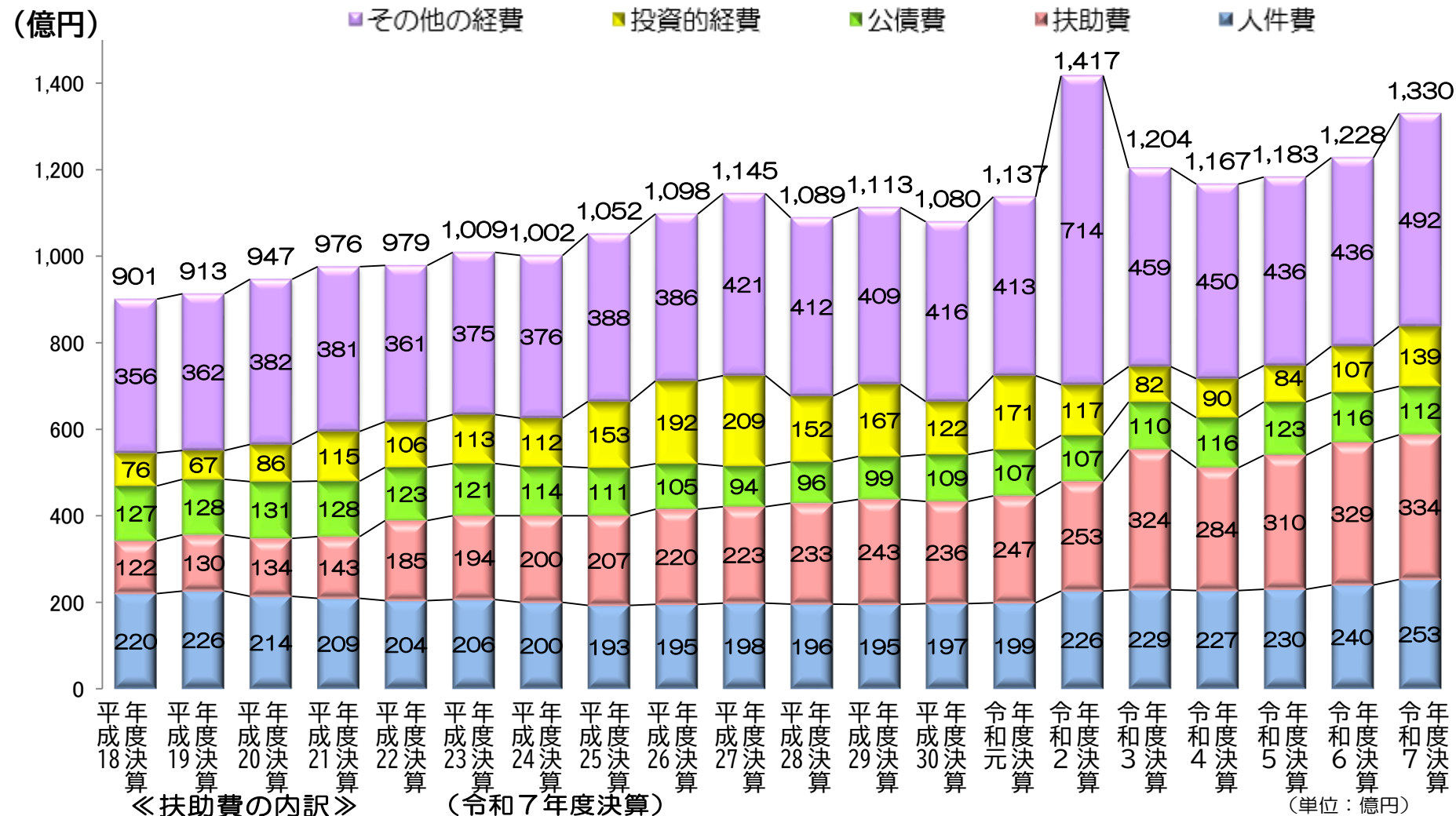
災害時の避難所となる体育館(久居、安濃、芸濃、一志)への空調機器の設置には、すでに「緊急防災・減災事業債」を活用しており、今後も、消防通信指令センターを鈴鹿市・亀山市と共同設置する事業などに充ててまいります。

令和7年度の事業への財源確保にも着手しました。折しも国が1,000億円から2,000億円へと予算倍増を決めた地方創生交付金には、かねてより構想を温めていた久居地域と津城周辺地区の子どもの遊び場・公園整備など多様なジャンルの事業を申請します。津駅西口ロータリーの再編整備には、都市・地域交通戦略推進事業への採択を目指しています。



今後も、市民の皆さまのご期待に応える事業を着実に推進しつつ、堅実な財政運営に努めてまいります。

一般会計性質別歳出決算額の推移(平成18年度～令和7年度)



区分	障がい者福祉関係	老人福祉関係	医療費給付関係	児童福祉関係		生活保護費関係	その他
					うち児童手当		
金額	114	4	21	137	50	51	7

■これまでの経過

H23. 4 ・収税課内に特別滞納整理推進室を設置し、**市税、国民健康保険料(税)、介護保険料、保育所入所負担金の困難債権**の徴収を開始

H24.12 ・**後期高齢者医療保険料の困難債権**の徴収を開始

H25. 4 ・**下水道受益者負担金・分担金困難債権**の徴収を開始

【特別滞納整理推進室の主な役割】

①効率的、効果的な徴収の実現

・税の手法を用いた厳正な滞納処分の執行による収納率の向上と歳入の確保

②全庁的な徴収環境の強化

・研修会を開催し職員の資質とスキルの向上を図る

【推進体制(R8.4.1現在)】

特別滞納整理推進担当理事、特別滞納整理推進室長ほか、計7名の職員体制で特別滞納整理を推進

特別滞納整理推進室設置から、滞納繰越分は大幅に改善。現年度の収納率も向上。また、室の取組の波及効果として、原課の徴収意識の変化も生み出し、全庁的な徴収努力を展開。

■これまでの実績と効果

■取扱債権における収納率の推移

	債権種別	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
現年度分	市税(個人県民税含む)	98.2	98.4	98.6	98.8	99.0	99.1	99.2	99.2	99.2	99.1	98.9	99.3	99.3	99.3	99.4	99.3
	国民健康保険料(税)	87.9	88.5	89.4	89.4	90.4	90.8	90.8	91.3	91.6	92.1	93.0	93.7	93.6	93.6	93.7	94.0
	介護保険料	98.5	98.6	98.7	98.7	99.0	99.2	99.1	99.2	99.5	99.6	99.6	99.6	99.7	99.7	99.8	99.8
	保育所入所負担金	98.0	98.4	98.5	98.5	98.4	98.6	98.5	98.1	99.1	99.5	99.7	99.8	99.7	99.5	99.3	99.3
	後期高齢者医療保険料	-	99.1	99.2	99.2	99.6	99.8	99.6	99.8	99.7	99.7	99.8	99.9	99.8	99.8	99.8	99.8
	下水道受益者負担金・分担金				97.5	91.3	86.4	87.3	90.7	95.8	95.0	91.9	87.6	90.0	94.1	92.5	94.1
滞納繰越分	市税(個人県民税含む)	21.2	22.7	23.0	25.1	23.0	22.1	27.9	27.3	27.3	27.7	28.9	36.9	27.6	28.2	37.7	27.6
	国民健康保険料(税)	10.3	15.8	21.0	21.7	21.9	22.4	23.3	24.3	25.0	25.5	26.3	22.4	22.8	24.2	23.9	25.1
	介護保険料	10.8	18.4	22.2	28.0	27.8	28.7	30.0	31.3	32.1	30.8	32.0	32.1	33.4	30.4	35.4	34.6
	保育所入所負担金	11.9	16.1	18.5	21.6	18.8	21.9	19.7	22.4	38.1	39.3	33.3	37.5	41.0	50.1	39.6	42.2
	後期高齢者医療保険料	-	33.0	40.8	54.4	54.9	55.9	53.2	48.1	44.0	44.0	44.1	40.7	49.0	44.3	49.6	42.5
	下水道受益者負担金・分担金			18.5	32.7	22.9	37.9	34.6	21.2	30.9	50.1	51.2	44.8	44.7	43.2	28.0	30.2

※青色太枠内は、特別滞納整理推進室が債権を引き受けた年度における原課の収納率

実績年度	債権種別	移管を受けた滞納債権		徴収金の総額		滞納処分				換価・充当処分	
		件数	実質債権額 (本税・本料の額) (円)	件数	(督促手数料・延滞金含む) (円)	差押 (件)	交付要求 (件)	執行停止 (件)	差押 (件)	交付要求 (件)	
R7	市税(個人県民税含む)	758	494,210,114	448	147,365,492	115	47	5	279	17	
	国民健康保険料(税)	298	169,237,649	378	58,318,951	178	16	0	369	1	
	介護保険料	70	10,695,256	150	7,294,263	50	9	0	94	1	
	保育所入所負担金	16	1,331,416	19	749,534	10	1	0	11	0	
	後期高齢者医療保険料	7	905,932	21	1,147,300	6	2	0	11	0	
	下水道受益者負担金・分担金	13	578,710	35	1,147,300	8	0	0	13	0	
	計	1,162	676,959,077	1,051	216,022,840	367	75	5	777	19	
H23～R6 (14カ年)	市税(個人県民税含む)	8,363	14,186,326,012	7,271	5,243,262,413	2,109	626	292	5,336	183	
	国民健康保険料(税)	3,401	1,979,328,159	4,708	1,196,741,856	1,931	75	0	3,632	11	
	介護保険料	1,076	115,870,894	1,408	114,118,732	745	21	0	1,131	1	
	保育所入所負担金	310	99,469,342	382	45,590,399	185	3	0	293	2	
	後期高齢者医療保険料	169	26,602,292	234	30,516,015	121	8	0	204	0	
	下水道受益者負担金・分担金	79	7,559,130	86	7,602,722	40	1	0	47	0	
	計	13,398	16,415,155,829	14,089	6,637,832,137	5,131	734	292	10,643	197	
室設置以来の総実績		14,560	17,092,114,906	15,140	6,853,854,977	5,498	809	297	11,420	216	

※実質債権額は、移管債権額から当該年度内に執行停止処分を行った債権額を除いた実質の債権額
※徴収金の総額には、前年度引受分で当該年度に徴収した額も含まれます。

均整のとれた安定予算

令和8年度当初予算の基本的な考え方

本市は、令和8年1月1日に合併20周年を迎えました。

新たな20年の幕開けとなる令和8年度は、合併に伴う多彩な事業を盛り込む拡大基調の予算から、市民の暮らしを支え、まちの未来を着実に築いていく安定予算に転換する年です。

令和8年度予算は、「均整のとれた安定予算」として編成し、「こどもの未来」、「都市の未来」、「安心の未来」の3つのテーマに沿った施策を推進し、物価高騰対策をはじめ各分野の喫緊の課題に堅実に取り組むこととしました。

単位:百万円

一般会計当初予算の特徴

※[]書きはR7年度当初予算額との比較

普通建設事業費 78億2,200万円【59億700万円(43.0%)の減】

津駅西口駅前広場再整備、安濃中央総合公園・岩田池公園整備、
南郊公民館等整備、公共施設照明設備のLED化 等

扶助費 333億3,700万円【10億1,300万円(3.1%)の増】

障がい者支援(居宅介護、グループホーム等)給付、児童手当
民間保育所・認定子ども園に対する運営費負担金、こどもの医療費助成 等

人件費 261億1,500万円【4億2,700万円(1.7%)の増】 給与改定 等

物件費 202億8,700万円【10億5,000万円(4.9%)の減】

学校給食会計の公会計移行による賄材料費、コミュニティバス運行経費 等

補助費等 63億6,400万円【7億7,100万円(10.8%)の減】

放課後児童クラブ運営等補助金 等

市税 439億2,900万円【5億9,900万円(1.4%)の増】

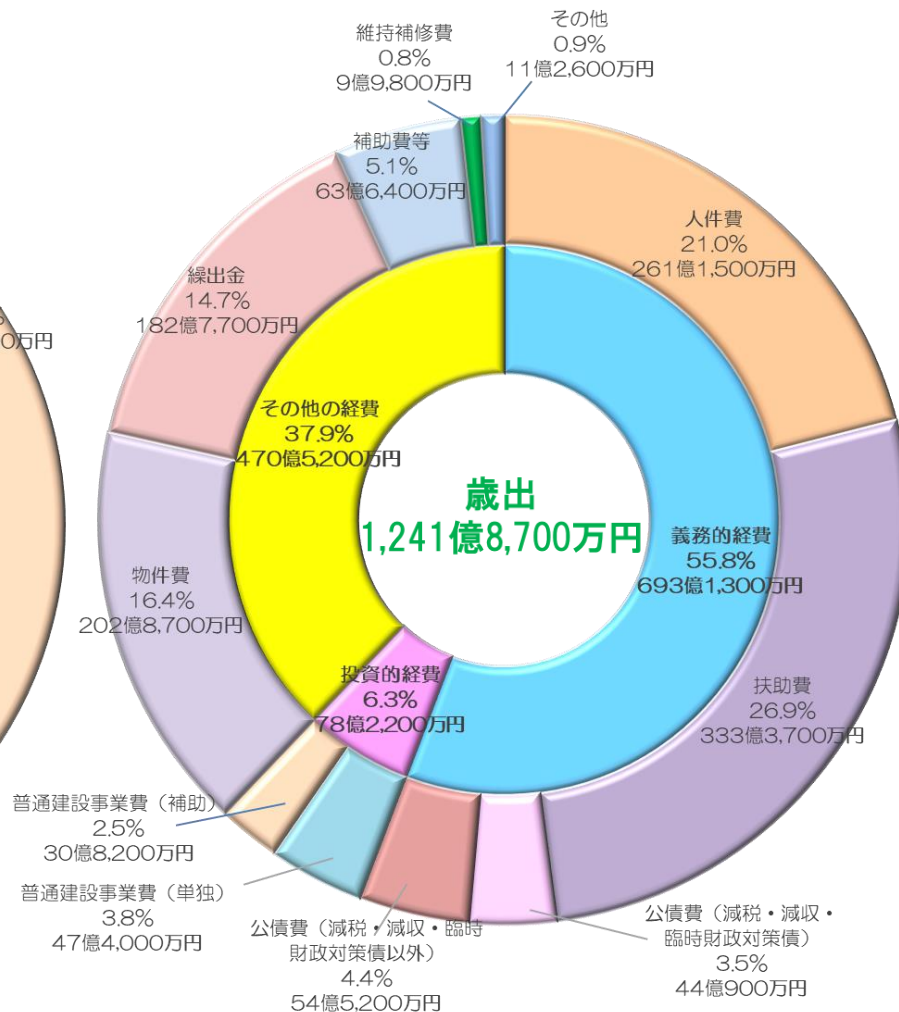
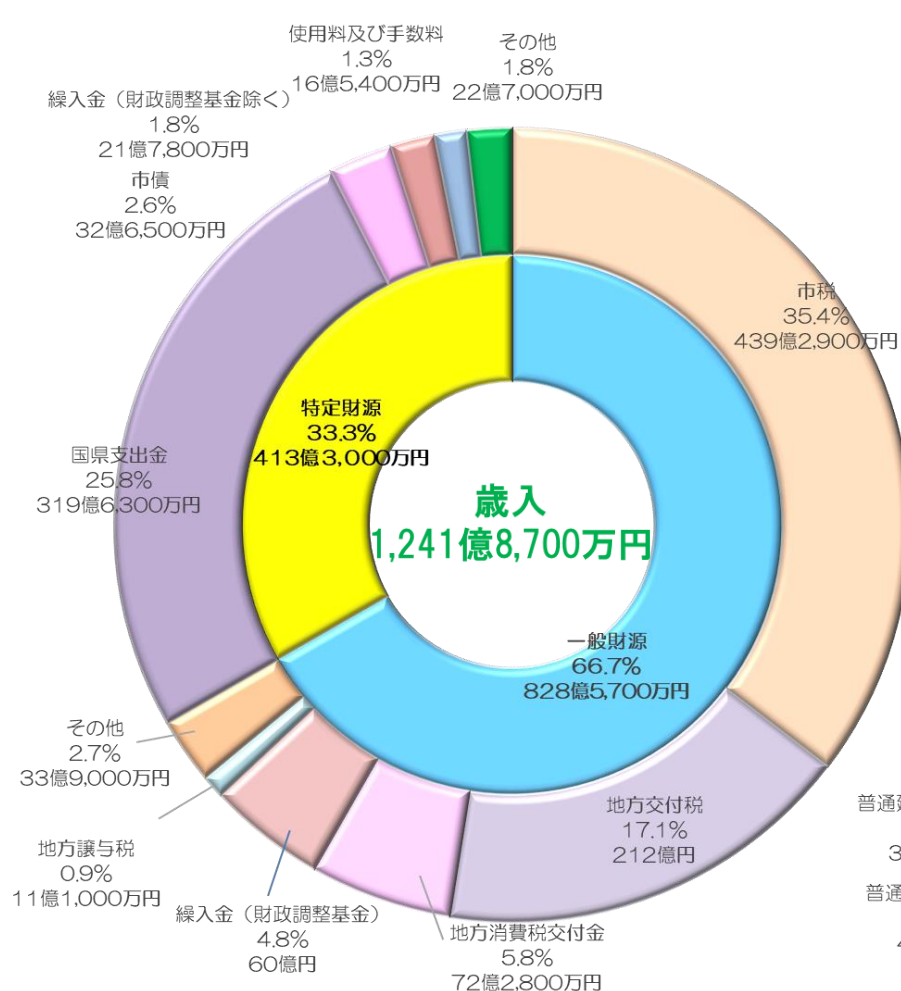
地方交付税 212億円【4億円(1.9%)の減】

繰入金 81億7,800万円【18億5,600万円(18.5%)の減】

市債 32億6,500万円【34億5,600万円(51.4%)の減】

区分		令和8年度	令和7年度	増減額	増減率
一般会計		124, 187	131, 693	▲7, 506	▲5. 7%
特別会計	国民健康保険事業	25, 701	26, 124	▲423	▲1. 6%
	介護保険事業	32, 091	31, 270	821	2. 6%
	後期高齢者医療事業	8, 918	8, 404	514	6. 1%
	土地区画整理事業	124	124		
	住宅新築資金等貸付事業	11	15	▲4	▲26. 7%
	棕本財産区	1	1		
	(6会計)合計	66, 846	65, 938	908	1. 4%
企業会計	水道事業(支出)	13, 547	12, 024	1, 523	12. 7%
	工業用水道事業(支出)	20	20		
	下水道事業(支出)	24, 278	24, 183	95	0. 4%
	駐車場事業(支出)	237	389	▲152	▲39. 1%
	モーターボート競走事業(支出)	62, 025	65, 498	▲3, 473	▲5. 3%
	(5会計)合計	100, 107	102, 114	▲2, 007	▲2. 0%
合 計		291, 140	299, 745	▲8, 605	▲2. 9%

18.財政運営 18-(7)-② 令和8年度一般会計当初予算



こどもの未来

こども及び妊産婦医療費助成事業

新 令和8年4月から、こどもの医療費助成の対象を高校生年代まで拡充し窓口無料化

14億8,262万円

＜こども基金9億3,040万円＞

令和7年度予算額 12億2,678万円

〔当初予算額 12億5,467万円〕

補正予算額 ▲2,789万円

産後ケア事業

新 市内宿泊型サービスの拡充 昼間に加え夜間・休日にもサービスの利用や相談ができる24時間365日の受入体制や兄弟等の受入対象者の拡充

2,327万円

令和7年度予算額 1,344万円

〔当初予算額 1,344万円〕

乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)

就労要件を問わず、月一定時間までの利用可能枠の中で柔軟に利用できる通園事業の本格実施(香良洲浜っ子幼児園、民間保育所3園及び私立幼稚園2園で実施)

2,199万円

令和7年度予算額 418万円

〔当初予算額 418万円〕

こどもの未来

産前・子育て応援ヘルパー派遣事業

妊娠・出産や子育てに不安や負担を抱え、日常生活に支援を必要とする家庭へのヘルパーの派遣

791万円

令和7年度予算額	550万円
〔当初予算額	550万円〕

安濃津未来子どもウキウキプロジェクト

(地域未来交付金活用事業)



安濃中央総合公園のトイレ洋式化、多目的トイレのベビーチェア設置、公園アクセス道路(市道内多清水ヶ丘線)の整備等

1億 940万円

令和7年度予算額	228万円
〔当初予算額	0万円
補正予算額	228万円〕

こどもの未来

新 学校給食費負担軽減事業

公立小学校の給食費の抜本的な負担軽減の実施

6億8,348万円

学校等給食物価高騰対策支援事業

給食を実施している市内の小中学校、義務教育学校
及び幼稚園の給食食材費の高騰分に対する支援

1億4,765万円

令和7年度予算額	2億5,099万円
〔当初予算額	1億9,156万円〕
補正予算額	5,943万円

学校給食会計の公会計移行事業

令和8年9月から、学校給食会計を公会計に移行
し、給食費(中学校及び幼稚園)の徴収管理、アレルギー情報などの喫食管理等の情報を一元管理

3億4,391万円

令和7年度予算額 0万円
(債務負担行為設定)

こどもの未来

白山地域小学校整備事業

白山地域の小学校5校を統合し、令和11年度に新しい学校を開校するための大三小学校改修工事に係る実施設計、工事期間中の仮設校舎の設置等

7,442万円

令和7年度予算額 0万円
(継続費設定)

新 学校屋内運動場空調設備設置事業

令和9年夏頃までに小中学校屋内運動場へ空調設備を順次設置

(債務負担行為 令和9～14年度 総額 24億2,868万円)

1,700万円

放課後児童クラブ運営補助事業

放課後児童クラブの運営に対する補助

15億1,499万円

令和7年度予算額 13億6,546万円
 当初予算額 14億4,111万円
 補正予算額 ▲7,565万円

こどもの未来

放課後児童クラブ整備事業

安濃放課後児童クラブの整備(移転改修)

5,199万円

令和7年度予算額	2億3,445万円
〔当初予算額〕	2億6,561万円
補正予算額	▲3,116万円

学校施設長寿命化改修事業

- ・改修工事:南立誠小学校、立成小学校
- ・実施設計等:一身田小学校、芸濃小学校

4億7,126万円

令和7年度予算額	1,921万円
〔当初予算額〕	12億6,036万円
補正予算額	▲12億4,115万円

学校施設改修特別推進事業

学校施設整備基金を活用して校舎の雨漏り、放送設備等を改修

- ・防水改修工事:美杉小学校
- ・放課後児童クラブ移転に伴う校舎改修工事:安濃小学校
- ・防球ネット設置工事:立成小学校
- ・屋内運動場アリーナ床改修工事:一身田中学校
- ・防水改修設計:一身田小学校、一志中学校 ・給水設備改修設計:豊津小学校
- ・放送設備改修設計:上野小学校、南が丘中学校、朝陽中学校

1億7,961万円

＜学校施設整備基金＞

令和7年度予算額	1億4,895万円
〔当初予算額〕	1億6,141万円
補正予算額	▲1,246万円

都市の未来

津駅周辺整備事業

- ・ 津駅西口駅前広場再整備工事 1億1,600万円
- ・ 津駅東口交通ターミナル上部空間等活用の検討 2,200万円
- ・ シェアサイクルの運営 1,584万円 等

1億5,414万円

令和7年度予算額 5,498万円

〔当初予算額 4,445万円〕

補正予算額 1,053万円

新 まちなか再生事業

大門・丸之内地区において、通り沿いの民間所有不動産の魅力的な利活用を促進するため、まちなか再生プロデューサーを起用し、グランドデザインの検討、不動産活用に係る勉強会、物件調査と所有者意向の把握、遊休民間不動産を活用した社会実験、家守会社の設立準備等を実施

1,050万円

都市の未来

地域文化ホール活力・魅力創造事業

- ・ ホール客席特定天井脱落防止対策
工事:芸濃総合文化センター、美里文化センター
設計:一志農村環境改善センター
- ・ 美里文化センター屋根及び屋上防水工事

1億4,090万円

令和7年度予算額	415万円
〔当初予算額〕	0万円
補正予算額	415万円

歴史・文化と豊かな自然を感じる空間創出プロジェクト (地域未来交付金活用事業)

岩田池公園園路及びサブエントランス整備、公園アクセス道路(市道垂水半田線)の整備

2億7,206万円

令和7年度予算額	1億4,503万円
〔当初予算額〕	1億4,503万円

塔世橋南郊線歩道整備事業(新相川橋架け替え)

県が施工する新相川橋架け替えに併せた歩道の拡幅部分に対する負担(令和8年度供用開始予定)

7,350万円

令和7年度予算額	6,510万円
〔当初予算額〕	6,510万円

都市の未来

河芸町島崎町線第3工区道路新設改良事業

県施工事業に対する負担

- ・都市計画道路河芸町島崎町線(橋りょう詳細設計、用地測量)
- ・都市計画道路津海岸御殿場線(用地取得)

5,333万円

令和7年度予算額	2,000万円
当初予算額	2,917万円
補正予算額	▲917万円

津航路新船舶建造事業

新船舶建造に係る基礎調査及び船舶仕様等の検討

1,527万円

令和7年度予算額	5万円
当初予算額	0万円
補正予算額	5万円

コミュニティバス運行等事業

- 新** 再編後の各地域のコミュニティバスの運行、リクエスト型運行の予約に係るコールセンター業務等

2億9,600万円

令和7年度予算額	2億5,810万円
当初予算額	2億2,798万円
補正予算額	3,012万円



安心の未来

新 学校屋内運動場空調設備設置事業（再掲）

令和9年夏頃までに指定避難所である小中学校屋内運動場へ空調設備を順次設置

（債務負担行為 令和9～14年度 総額 24億2,868万円）

1,700万円

災害対策用備蓄品更新事業

大規模災害に備えた既存備蓄品（ミニクラッカー、アルファ米、粉ミルク、消毒液など）の更新

1,415万円

令和7年度予算額 1,038万円
〔 当初予算額 1,038万円 〕

新 避難所環境整備事業

避難生活における良好な生活環境を確保するための備蓄品の拡充配備（飲料水15,312本、毛布2,800枚）

987万円



安心の未来

緊急自然災害防止対策事業

緊急自然災害防止対策事業債を活用した、河川改修工事等

- ・ 河川及び排水路の改修等（奥ノ小谷川 ほか）
2,060万円
- ・ 農業用ため池の洪水調整池への転用（赤坂池 ほか）
1,150万円
- ・ 道路及び側溝の改修
（栄町桜橋第8号線、高野団地線 ほか）
1億5,620万円

1億8,830万円

令和7年度予算額 2億8,996万円

〔当初予算額 3億 831万円
補正予算額 ▲1,835万円〕

緊急浚渫推進事業

緊急浚渫推進事業債を活用した、浸水対策のための
河川の浚渫工事（五除川、古井谷川 ほか）

5,010万円

令和7年度予算額 3,855万円

〔当初予算額 4,520万円
補正予算額 ▲665万円〕



安心の未来

耐震化促進事業

木造住宅耐震診断の実施、補強計画作成、補強工事、
耐震シェルター設置経費に対する補助等

1億5,352万円

令和7年度予算額 1億2,215万円

〔当初予算額 1億2,989万円
補正予算額 ▲774万円〕

営農継続支援事業(市単独事業)

担い手等が営農を継続できる環境づくりに向けた
市独自の支援

○ 新 農作業機械等の修繕費用に対する補助 200万円

1億3,652万円

令和7年度予算額 1億3,131万円

〔当初予算額 1億3,451万円
補正予算額 ▲320万円〕

18.財政運営 18-(7)-⑭ 令和8年度一般会計補正予算のポイント①

一般会計補正予算(第1号) 補正額2,837千円

国民健康保険事業

国民健康保険事業特別会計繰出金の増額

2,837千円

一般会計補正予算(第2号) 補正額224,689千円

物価高騰対策支援事業

物価高騰の影響を受ける市民、事業者等に対する支援(水道料金基本料金無料化事業、障害者支援施設・介護保険施設・医療機関等物価高騰対策支援事業)

524,516千円

津駅周辺整備事業

県との連携によるにぎわい創出イベント等
公共空間活用社会実験、東口駅前広場の交通安全対策

8,000千円

運動部活動地域展開等推進事業

休日の中学生の運動部活動の地域展開に先行して取り組む地域クラブ(4団体)に対する活動支援等

1,678千円

学校施設長寿命化改修事業

国の令和7年度補正予算(第1号)に伴う事業の前倒しによる当初予算措置分の減額

△441,982千円

18.財政運営 18-(7)-⑮ 令和8年度一般会計補正予算のポイント②**一般会計補正予算(第3号) 補正額122,095千円****隣保館運営事業**

久居北口市民館の外壁等改修工事

28,478千円

介護保険事業

介護老人保健施設つつじの里・特別養護老人ホームきずなの浴場用真空式温水発生機修繕

14,858千円

農地、農林業施設災害復旧事業

台風により被災した農地、農林業施設災害査定に向けた測量設計及び復旧工事に係る補助金の交付

45,139千円

公共土木施設災害復旧事業

台風により被災した公共土木施設災害査定に向けた測量設計及び復旧工事等

33,620千円

**18.財政運営 18-(7)-⑯ 令和8年度一般会計補正予算のポイント③****一般会計補正予算(第4号) 補正額650,427千円****津駅周辺整備事業(東西自由通路整備事業)**

東西自由通路の事業化に向けた基本計画の作成

51,445千円

北口保育園駐車場整備事業

密柑山幼稚園の園舎を解体し、新たな駐車場(約60台)を整備

5,885千円

地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金事業国から交付金の交付決定を受けた認知症高齢者グループホーム等の
非常用自家発電設備整備等に対する補助に要する経費

32,429千円

一般会計補正予算(第5号) 補正額177,680千円**農地、農林業施設災害復旧事業**

台風6号により被災した農地、農林業施設の復旧工事費

68,199千円

公共土木施設災害復旧事業

台風6号により被災した公共土木施設の復旧工事費等

109,481千円

ふるさと津かがやき寄附(ふるさと納税)

生まれ育った地域、進学・転勤などで住んだことのある地域、両親・祖父母が生活している地域、仕事先など生活の中心となっている地域。

ふるさと津かがやき寄附(ふるさと納税)は、そんな「ふるさと」の地方公共団体に「寄附」をすることで、**ふるさとを応援する**仕組みです。皆さんからお寄せいただいた「寄附」は、津市の未来へつなぐまちづくりに使わせていただきます。

～あなたの想いを
津市のまちづくりに～

これまでの寄附実績(平成20年度～令和7年度)

累計額 17億8,556万2千円 単位:円

年度	平成20年度 ～令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
寄附額	401,283,011	249,410,302	216,462,001	237,933,550	286,910,107	393,562,840

ふるさと津かがやき寄附の使途別実績(令和7年度)

使途別	件数(件)	寄附金額(円)
①こどもたちが未来にむかってかがやくまちづくり	4,847	195,053,500
うち、私立高等学校・短期大学支援	322	10,415,000
三重短期大学の教育環境充実	77	1,911,000
②歴史文化を未来に伝えるまちづくり	477	17,739,000
③自然環境を生かし、未来につなげるまちづくり	1,162	44,009,000
①～③のいずれでもよい	3,117	118,431,000
④津城跡の整備	470	15,295,340
⑤多気北畠氏城館跡周辺のまちづくり	93	3,035,000
合計	10,166	393,562,840

18.財政運営

18-(8)-②

ふるさと津かがやき寄附②

寄附者への特典

一度に1万円以上ご寄附いただいた市外在住の方（個人）に津市の特産品等を贈呈

「感謝の品」取扱事業所

90事業所

（令和8年10月1日時点）

精肉・
肉加工品等

- ・名産松阪肉 朝日屋
- ・丸栄食品株式会社（肉の大和屋）
- ・松阪牛一頭買い専門店竹屋牛肉店
- ・株式会社堀坂

- ・有限会社一志ピックファーム
- ・MYV株式会社（松阪牛三重松良）
- ・松阪牛 寿ぐきん（いせもん本店）
- ・緑彩

- ・株式会社I・T・O貿易
- ・有限会社大西畜産
- ・株式会社TANKUS
- ・有限会社伊勢屋
- ・山地酪農 珠の牧

果物・
野菜等

- ・鈴木果樹園
- ・前川果樹園
- ・果樹秀専
- ・自然家 和（むすび）
- ・株式会社つじ農園

- ・きたざわ農園株式会社
- ・津安芸農業協同組合
- ・津インターファーム
- ・みえなか農業協同組合
- ・JA全農みえ

- ・株式会社プレーリードッグ
- ・株式会社ミエライス
- ・イケムラライス
- ・株式会社スマイルコミュニティー
- ・三交不動産株式会社（三交ハレノヒファーム）

加工食品・
菓子類等

- ・有限会社よこや製茶
- ・株式会社富士珈琲
- ・株式会社丸大大森
- ・町屋百菜合同会社
- ・株式会社夢工場麦
- ・株式会社川魚問屋丸三商店
- ・株式会社野田米菓
- ・パティスリーナカジマヤ
- ・株式会社羽根
- ・ships株式会社

- ・フタバ食品株式会社
- ・株式会社ムッシュ・コウノヤ
- ・プリンタイム
- ・株式会社 Le Tronc
- ・株式会社PakuPaku
- ・株式会社ミルクパレット
- ・株式会社福寿軒（T²の菓子工房）
- ・株式会社南翠（麺処やま田）
- ・株式会社MARUKAN
- ・マリンフーズ株式会社

- ・有限会社赤塚製麺
- ・Atelier petit a petit
- ・DE CARNERO CASTE
- ・株式会社PALME
- ・トキノフ u. Baumkuchen
- ・株式会社伯藤久庵
- ・鰻つたや
- ・魚泉水産
- ・ラ・ミシェット
- ・株式会社クラフトフレッシュカネテ

- ・株式会社東洋軒
- ・いも庵
- ・CASAMIA

その他

- ・おぼろタオル株式会社
- ・株式会社おやつタウン
- ・株式会社咲楽
- ・大衛株式会社
- ・藤田医科大学 七栗記念病院
- ・株式会社一志ゴルフ倶楽部
- ・一般社団法人津カントリー倶楽部
- ・三甲ゴルフ倶楽部榊原温泉コース
- ・株式会社マリーナ河芸
- ・トーションリゾート株式会社

- ・伊東種苗園
- ・タイガー魔法瓶株式会社
- ・株式会社鳥鹿養鶏園
- ・榊原温泉 湯の瀬
- ・アスкул株式会社
- ・Keica Flower
- ・株式会社日本旅行
- ・株式会社やま幸
- ・株式会社ひさいスポーツ
- ・王子製菓株式会社

- ・臼井織布株式会社
- ・楽天グループ株式会社
- ・ヒストリーパーク塚原オートキャンプ場
- ・ミツマタを活かした地域づくり協議会
- ・公益社団法人津市シルバー人材センター
- ・津花火大会実行委員会
- ・久居まつり実行委員会
- ・株式会社ディープレス
- ・エリアファースト合同会社EXIA

令和4年4月26日～

私立高等学校・短期大学、津市立三重短期大学を指定した寄附の募集開始

これまで

こどもたちが未来に向かってかがやく
まちづくり

歴史文化を未来に伝えるまちづくり

自然環境を生かし、未来につなげるま
ちづくり

※上記はいずれでも良いの選択も可能

津城跡の整備

多気北畠氏城館跡周辺のまちづくり

令和4年4月26日～

こどもたちが未来に向かってかがやく
まちづくり※

私立高等学校・短期大学支援

津市立三重短期大学の教育環境充実

歴史文化を未来に伝えるまちづくり※

自然環境を生かし、未来につなげるま
ちづくり※

※のうちいずれでも良いの選択も可能

津城跡の整備

多気北畠氏城館跡周辺のまちづくり